

## 第5回 道路の将来交通需要推計に関する検討会 議事要旨

平成20年9月8日(月) 15:00~17:00

虎ノ門パストラルホテル 新館4階 ミントの間

### <出席委員(敬称略、五十音順)>

石田委員長、岡本委員、鈴木委員、豊田委員、根本委員、原田委員、兵藤委員、池田臨時委員、佐藤(友)臨時委員

### <議事要旨>

#### 1. 佐藤(友)臨時委員からの情報提供について

- ・年輩の世代は豊かになることを目標設定にしてきた世代と言えるが、今の若い世代は生まれたときから豊かであり、自然体でやりたい、自分らしくやりたい、という意識が強く、目標設定の考え方が大きく異なっている。
- ・今の若い人は動く人と動かない人に二極化しているが、動かない人もコミュニケーション願望はあると考えられる。
- ・子どものいる標準世帯というもの自体が少なくなってきたおり、交通需要を考える上ではそういった世帯のライフスタイルを細かく見ていくことが必要である。
- ・若者の車に対する気持ちは、年輩の方々とは異なっており、自分にとっての車というものの位置付けが変わってきている。コスト意識が非常に高いことから、レンタルやシェアでもよいという考えが出てくる。

#### 2. 池田臨時委員からの情報提供について

- ・若者と比べて高齢者の歩行中、自転車の運転中の事故が多くなっている。高齢者にとってみれば、歩行や自転車の利用よりも自動車の運転が危険であるとは必ずしも言い切れない。
- ・山間部では歩行や自転車の利用が困難であり、仕事目的にほぼ毎日自動車を運転しているような方が多い。家族内で運転できる人が他にいれば高齢者の運転はやめさせやすいが、誰もいない場合には運転をやめさせると家族全体が孤立することになり、生活の破綻につながってしまう。
- ・高齢者のドライバーとは、現状では男性のことを意味しているが、今後は女性の高齢ドライバーが大きく増加していくことが確実であり、高齢者における男女の運転能力、空間的な能力の違いといった研究が今後必要と感じている。
- ・90歳を超えても自分で運転して奥さんを病院に送る方がいる等、心身ともに元気でいられる年齢は上昇していると感じられる。高齢者に限って言えば、ペーパードライバーは非常に少なく、免許を持っていると運転している方が若い世代に比べると高い。
- ・今後の限界集落対策を考えると、公共交通や送迎バスの整備により高齢者の移動をサポートしていくことが重要である。
- ・高齢者に長く運転してもらうための道路の対策として、標識のシンプル化が必要と感じる。また、郊外のショッピングモール等に病院や行政機関を集中させ、そこへの公共交通機関の整備を併せて行うような方法が考えられる。

### 3. 海外における交通動向と交通需要推計について

- ・イギリスと EU の推計モデルは、ともにコストを考えている。我々もコストについて考慮していく必要があるのではないか。
- ・ヨーロッパで将来交通需要が伸びる推計をしているから日本でも同様の考えを採用すべきというのではなく、海外でどのような推計をしているのか確認をすることが今回の趣旨である。イギリスやフィンランドで、過去の景気低迷時に交通量が減少し、その後景気回復すると交通量が増加に転じたという事例は、我々も参考にすべきである。